

大河原町まち・ひと・しごと創生会議「第1回会議」 会議録

日時：7月19日(火) 13時30分～15時30分

場所：大河原町役場2階 第1会議室

1. 開会（進行：長谷川課長）

2. 開会のあいさつ（長谷川課長）

令和4年度の大河原町まち・ひと・しごと創生会議「第1回会議」を始めさせていただきます。進行役となります、私、企画財政課課長の長谷川と申します。

本日金井委員さんがいらっしゃるはずだったんですが、仙台大学事業において調整が難しかったという事で金井委員欠席でございます。また、委員の皆様には事前に資料を送付させていただきましたところで、本日の配布資料も含めて確認させて頂きたいと思っております。

まず、お送りしました大河原町のまち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の進捗管理シート、第1資料白石川右岸河川敷と整備事業大河原千本桜スポーツパーク、資料2が令和3年度ふるさと寄付金活用状況、資料3が大河原町企業版ふるさと納税のご案内。そこから本日お配りした内容になっております。お配りしました資料4としまして、数字で見ると大河原町。と言う事でこれが、町からの資料5点。本日欠席されました金井委員の方から資料をいただいております。人材育成やブランディング関係。食の開発等の部分についてご意見を頂いているところでございます。

また、晋山委員からもご意見を示された資料がございますので、皆様の所に配布されております。今回の次第の裏には委員の配席図、また委員の名簿となっております。

資料の方大丈夫でしょうか。不足ありませんでしょうか。皆様不足が無いようでございますので、会議に入らせていただきます。

始めに委嘱についてですが、2年単位に委嘱をさせていただいております。こちらにつきまして、創生会議の委員につきましては、令和4年度、5年度改めて委嘱となっておりますが、本来町長より委嘱状を交付するところでございますが、コロナ禍と言う事で事前に郵送させて頂いております。ご了解のほどお願い致します。この二年間の任期にしまして、改めて役員改選と言うところもあったのですが、会長、副会長選任致すというところでございますが、大変申し訳ございませんが、一年に1回の会議で、事務局案としまして会長席、副会長席もうけまして、櫻井会長、佐藤副会長の方をお願いしていきたいなと事務局案として思っておりますので、皆様よろしいでしょうか。そのままスムーズに進めさせて頂きたいと思っております。よろしくお願いたします。ではお手数をかけますが、引き続きお願い致します。本日委員名簿配布しておりまして、12人中11人変わりないところでございます。名簿によりご紹介するところですが、今回割愛をさせていただきます。

ます。今回改めて委員になられた方ですが、名簿でいいますと3番目の大河原町文化財保護委員会の代表の森貢喜委員でございます。よろしくお願いたします。事務局がこの4月に変わっております。担当となります、企画財政課課長補佐兼政策企画係長の小熊でございます。また、本日デジタル化専任で配属となっておりますが、企画財政課の参事佐藤でございます。このような形で進めさせていただきます。それでは次第によりまして、進めさせていただきます。

はじめに、齋清志大河原町長よりご挨拶申し上げます。

3. 町長あいさつ（大河原町長）

皆さんこんにちは。梅雨明けが早くでですね、猛暑熱中症が心配になったところでした。梅雨が戻りという状況になって、合わせてコロナの感染拡大が第7波という非常に高い波になってきていることとと思っていました。梅雨末期の状況が今なんだと思いますけど、今度災害の激甚化、今日も九州大変な状況になっているようですけど、つつい陽気にも文句言いたくなるような状況が続いておりまして、心構えができていないかと反省しているところでございます。

さて今日は令和4年度大河原町まち・ひと・しごと創生会議、年に1回という事でございますけど、皆さんお忙しい中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

そしてまた、それぞれの立場で日頃より町政へのあたたかいご理解、ご協力を頂いておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げる次第でございます。ありがとうございます。

ちょっと、自慢話にならないように注意してお話したいと思いますけど、町の現状、あるいは本町のやっぱり大事にしていかなければならない特徴、そしてまた、今取り組んでいる主な事業ちょっとだけ触れさせて頂きたいと思います。昨年10月1日付けとすることで県の人口推計が発表になりまして、町史始まって以来ですけど、人口増加率第一位。増加が大河原町、利府町、仙台市しかないという話ですね。でもあの大変ありがたい結果だなというふうに受け止めたところです。6月30日付け見ましたら残念ながら人口60人程減って、これから伸びる可能性はありますけども、やっぱりなかなか増加を維持するのは難しいと思っております。しかしですね、若い人が移り住んできてくれている状況があって子ども達の数あまり減ってないですね。給食の食数見ましたら2千食維持している状況ですので、今、近隣自治体どこも人口力問われますけど、実は子どもの数がすごく減っている。併せて生産年齢人口も合わせてすごい勢いで減っている。うちは現状生産年齢人口もあまり多く減っていないようですが、人口の5歳区切りの分布50～55っていうのが一番多いんですね。働き盛り、そして高収入の人達が一番多いという状況になっています。これがやっぱり傾斜かかっていますので、減っていきますので全体的には生産年齢人口もいずれ減っていく、合わせて子どもの数も減っていくという厳しい状況を迎えることになるだろうなあ。それから、私就任以来、税金からの総額というものにし

っかり目を向けるという気持ちです、財政計画を先まで見通せるように考えてきたところですけども、お陰様でふるさと納税ですけども、大変ありがたい状況が昨年生まれていまして、本年度のそれを越える推移を現状の所、しているところです。ただ、毎年約束されているお金ではありませんので、これに対する対応、しっかり受け止めながら進めなきゃいけないなというふうに思っています。町の財政もですね、いつの間にか仙南で一番高くなっていまして、町民所得も柴田町に比べたらだいぶ低かったはずなんです、今は仙南7町では最も町民所得も高い町になっています。諸々そういったものもこれから特徴の一つとして活かしていくことを考えていかなければと思っています。併せて何度も申し上げてきましたけども、町民の皆さんの健康意識が非常に高く、平均寿命と健康寿命の差が非常に短い。つまり不健康な期間が短い町、第一位なんですけれども、大河原町と言う事で県のほうでも注目をしてくださっている状況がございます。それから、相変わらずですが子ども達一生懸命頑張っていて学力の高い水準をずっと維持してきている。小中学校の学力一斉調査間もなく発表になるかと思えますけれども、発表といっても具体的に公表されるわけではないんですが、これも関心を持って今年度の状況をみたいなって言うふうに思っています。それからうちの町は商業の歴史を色濃く持ってきた宿場町の中でというのものもあるわけですけども、仙南に存在するのが大河原商圏だけで、商業売上高を調べて見ますと第一位がやっぱり大河原町という事ですね。町の特徴やっぱり活かしていきたいなと思っています。それから町民の皆様もだいぶ関心を持って下さっているように私自身受け止めておりますけども、白石川右岸の河川敷整備事業が順調に進んでおります。現在は堤外地が堤防の川側内側になるんですけども、マウンテンバイクパークが先に完成しまして、今年度36ホールのパークゴルフ場、ドッグラン、芝生広場、さらに広い駐車場等が整備されていく。県の事業ですが浸水環境整備、護岸整備したところに水を引き込んで子ども達が水辺で遊べる、そういう環境を作ってこられる工事を、色々あって遅れていますけども、これも間もなく完成する予定でですね、一目千本桜、大河原一目千本桜スポーツパークと名付けましたが、これが更にですね町民の皆様が関心と呼んで健康作りあるいは、賑わいの創出そういうものに繋がっていけばいいなと考えているところです。堤外地、田んぼ側の整備がこれから進んでいきますけども、一気にお金かけて整備というわけにはいきません。積み上げ方式で着実にうちの町が担わなければならない役割、賑わいの創出まさにその一つだと思いますけども、そこに拠点整備をしていきたい。その時に地方創生推進交付金とかですね拠点整備交付金こういったものの活用が叶うように、職員も一生懸命準備を進めて頑張っているところです。併せてふるさと納税企業版というのを国の認可をいただきまして7月の初めでした、認可いただいてこれから進めていこう。主に盛土工事とかそういったところで使えるお金を何とかご支援いただければなあと思っています。そういった町の取組み、将来的に向けた取組み、そしてまた家の町が本来果たしていかなければいけない役割、そういう物にしっかり目を向けて尚且つ地方創生それぞれ持っている町の特徴を活かしながら

連携強化を図っていくということもありますけども、そういったところにきちんとフィットするような施策をしていきたいと思っています。いずれ町民の皆様の声が我々の後押しに大変大きな力になりますので、今日は忌憚のないご意見賜ればというふうに思う次第でございます。

長くなりましたがご挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

(進行：長谷川課長)

ありがとうございました。齋町長におきましては地方創生に関する情報交換を含めまして会議に同席させていただきますので、委員の皆さんもご了解のほどお願いいたします。

それでは次に、まち・ひと・しごと創生会議会長であります櫻井会長様よりご挨拶をお願い致します。

4. 会長あいさつ（櫻井俊寛会長）

みなさん、こんにちは。大河原町商工会の櫻井でございます。委員の皆様、お暑い中ご参集いただきましてありがとうございます。昨年度も7月の連休明けでございましたので、丁度一年ぶりの会議になります。2年任期のまち・ひと・しごと創生会議の役員改選につきまして、先ほど事務局案としまして会長、副会長再任というお話で委員の皆さんからもご賛同いただきました。地方創生に詳しいといい難い中、微力ではございますが、引き続き会長を務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく申し上げます。

さて、コロナウイルス感染が増えたり減ったりを繰り返す中でも、日常生活を取り戻しつつある現状が増えているように思います。オミクロン、BA5の蔓延が始まっている状況もありますが、with コロナ、after コロナと言われるように上手く付き合いながら暮らしの中の活気を感じていくことが大切ではないかと思っております。どのような中においても活気を保つことが、個人においても地域においても町全体においても必要だと感じております。この会議の大元の計画、大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略という地方創生を考えた計画の中で、町の活気を保ち続けていく事業が盛り込まれているものととらえております。本日は令和3年度の地方創生の事業実施が予定通り進んだのか、その進捗内容を確認するための会議となっております。令和3年度もコロナ禍により中止や縮小したものがありますが、全体として今の大河原町の状態が人口減少の観点、財政運営の観点などから良好な状態と言えるのかも見ていく必要があります。合わせて令和4年度が始まっていますが、本年度の予定も把握しながら大河原町の地方創生に対してご意見を頂いていきたいと思っております。本日の会議は2時間をくずさない、コンパクトで内容の濃いものとして事務局に進め方を工夫していただきたいと思いますのでどうぞよろしく願い致します。

(進行：長谷川課長)

はい。ありがとうございました。それでは会議に入らせていただきます。会議については会長が議長となりますので進行につきましてもよろしくお願い致します。

(司会：櫻井会長)

はい。それではスピーディーにということですので、早速(1)第二期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策における令和3年度実施内容及び令和4年度実施予定についての説明を事務局からお願い致します。

(説明：小熊課長補佐兼係長)

私小熊からご説明させていただきます。お手元に進捗管理シート、こちらをご用意いただきたいと思っております。第二期大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の各課題に対する令和3年度の施策の実施状況及び令和4年度の実施予定についてご説明させていただきます。全ての項目の説明は時間の関係上難しいので、内容もしくは事業費の異動が大きかったものをピックアップしてご説明させていただきます。その中で新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和3年度の事業の中止、縮小が事業費実績に表れており、令和4年度の予算額と開きがある施策が全体的にあります。その事業につきましてはコロナということをお含み頂いた上での説明になりますので予めご了承くださいと思っております。

また、質疑があります場合は私からの説明後に一括して時間を設けさせていただきますので、よろしくお願い致します。

→進捗管理シートにより説明

(進行：長谷川課長)

私の方から資料の1～4まで簡単に説明させていただきます。町長の挨拶からも中身を盛り込んだ所があったんですが、資料を見ていただきながらということをお願いいたします。

資料1 白石川右岸河川敷等整備事業大河原千本桜大河原スポーツパークの資料になります。進捗シートでも触れておりますが、3ページの方を見ていただくようになりますが、こちらの全体計画図にありますように、今月白石川の上流から今年4月オープンしましたマウンテンバイクパーク、スパークという名前ですね。その下の方に県の工事の親水護岸整備また芝生広場、ドッグラン、パークゴルフ場36ホール、大河原大橋付近の駐車場整備という部分が令和4年度で整備が進む内容となっております。また土手の天端については既にウォーキングロード、サイクリングロードが整備されておりまして、また、土手の途中にトイレと駐車場も整備を終えております。そのアクセス道路を今年手がけていくという内容でございます。河川敷の外には賑わい交流拠点施設の整備を予定して

いるという事で今年測量基本設計を進めることとなっております。最終ページにそのイメージ図を載せております。最終の形としてはこの様な部分が見えてくると言う事で4年くらい先ではないかという部分がありますが、体を動かすことによるスポーツや健康の拠点、また、桜と触れ合う観光の拠点、様々な交流が生まれる場所と考えているところでございます。次に資料2になります。令和3年度ふるさと寄附金活用使途の状況になってございます。広報にも掲載させていただいておりますが、こちらの内容を説明させていただきます。進捗シートでも23億円に増大となったとありましたが、寄附をされた方がどのように使ってほしいという部分を希望また使途に対してこのような活用事業を町の方で受けましたという部分を示しております。令和3年度において件数としましては、4万9千128件、約23億7千万円を頂きました。その半分は返礼品で3割、ポータルサイト使用料、決済サービスウェブにのせている部分で全国から寄付を頂く部分で手数料や使用料がかかって半分くらいが経費としてなっております。実質その半分が町の活用出来る額と言う事で約11億8千万円と示させていただいております。各分野の事業に充当したという部分になってございますが、返礼品につきましては99%超した形がアイリスオーヤマの家電製品ということになってございます。こちらは角田市との共通返礼品と言う事で進めさせていただいております。寄附者から家電製品が選ばれているという現状でございます。この分で町の財源がかなり余裕ができたことは確かでございます。次に資料3になります。大河原町企業版ふるさと納税のご案内と言う事で、こちらを今後企業の方に投げかけていきたいというチラシになってございます。個人のふるさと納税に続きまして、7月8日付けで国から企業版ふるさと納税の認可が下りたところでございます。これは、大河原まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策全般に対しまして企業から寄付を受けられる許可がでたという事になります。企業が自治体を応援する目的で寄附を行いまして、その最大90%に関し法人税等の軽減が可能となるという制度でございます。また企業は寄附を行うことで自治体の地域活性化の応援をするというイメージアップに繋がり、また、企業の社会貢献目標としてのSDGs等へ寄与できるという部分がございます。対象は町内に本社を持つ企業で大河原を応援していただける企業となっております。今後このような企業とのパートナーシップ連携を持ったまちづくりの展開を広めていく方向でございます。

最後に資料4でございます。数字で見る大河原町です。昨年もお出ししておりますが、本日も配付させていただいたところです。特筆する部分だけ申し上げます。一番の人口は令和2年10月から1年間の増減を見たところという事になってございまして人口増となった割合が県内で1番という部分が町長も申したことでございます。3番、出生者数になります。4番死亡者数の自然増、減によりまして昨年より113人が減という事です。宮城県全体が出生率の伸びについて苦戦しているという部分がございます。このような部分で大河原町の出生率を高めていかなければならないという部分はございます。6番目転入者数と7番転出者数を比較すると社会増減数につきまして伸びている形になってござ

います。昨年は 163 人だったんですが今回は 206 人という部分がございますので転入者が多い形となっております。9 番離婚の数が昨年は県内で 2 番目と言う事でとても悪い数字だったんですが、今年は令和 3 年度より 12 件減りまして県平均離婚率を下回る状況という部分がございます。下の星マークにつきましては先ほど町長が申ししていた健康寿命後期高齢受診者受診率の高さ、要介護認定、介護保険料の低さなど、町としての数字が上がっているところがございます。最後に二行になりますが、ふるさと寄附金の増額その寄附金を町事業に活用、充当したところ、町の貯金でもあります財政調整基金また施設の長寿命化を進める公共施設等整備基金が増えたことを示しております。令和 3 年度においても総額 5 億 8 千万円を基金に積んだ結果という形の内容になっています。以上資料の説明は簡単にさせていただきました。

(司会：櫻井俊寛会長)

ありがとうございました。前もって資料をお配りしたことで大分駆け足の説明にはなつたと思いますけど、令和 3 年度の事業実施内容に関しましてまた 4 年度の予定も説明いただきました。これらの説明を聞きまして何かご質問ご意見がございましたらよろしくお願い致します。

<質疑応答>

発言	内容
安藤俊和委員	今年度が一目千本桜の 100 年事業があるという話をきいています。それで内容は色々検討中なんだろうけど、柴田町と合同でやるっていう話はあるのでしょうか。
企画財政課長	来年の令和 5 年 4 月が 100 年、柴田町は先に植えた部分があつて 100 年のタイミングがずれているのですが、共同で来年の 4 月に向けてそのような形で行っていききたいという部分で今調整をかけている。シンボルマークとかですね、やはり一目千本桜植歴 100 年という部分を前面に出してイメージを PR していきたいというのを同じ形にしていきたい。というようでございます。
晋山孝善委員	せっかく自転車に力を入れて、尚且つ整備が進んでいる中で、そこに行くまでのアクセスを見ていて思ったんですね。私いつも通っていて思ったのは、駅前から来た時にサイクリングのエリアを作られています、全長的に広げ会場まで自転車で行けるような、そういう形でそのやるとそのイメージをもつサイクリング、せっかく作るものと町がやろうとしていることが一体化できるかな。ただあの、その駅前見ても非常に難しいなと僕は思う。普通にサイクリングロードの所に違法駐車したとかしょっちゅう、毎日通っているので見えるところあるん

	<p>ですけど、やはりその折角ここまでお金かけて色々やって、尚且つ子ども達が安心してそこまで自転車で、車もそうですけど自転車でいけるような形を町がとるとすごいイメージが沸くかなというふうに思ったわけ。意見として。</p>
企画財政課長	<p>2市7町でサイクルツーリズムの推進はやっているのですが、やっぱりなかなかこう市と町その隣り合った町でぐるっと回るっていうのは難しい所もございまして、それでツーリングマップを共同で出して少しずつ各市町とも共同の意識を持って進めると言う部分はございます。ただやはりできれば、安全なコースをできるだけ作って回って行きたいのは確かなので、河川敷の中をずっとサイクリングロードがあれば柴田町まで繋がれるかどうかという所もありますし、やっぱり思い描く所はあるんですが、規制もなかなか厳しい所もあって、そういう所は各町と話し合いはやっているところでございます。</p>
町長	<p>これ(資料1) 皆さん見ていただきましたけれども、金ヶ瀬さくら大橋の接続を直接降りられるようにしたい。車中心ですけれども。駐車場があってそこに同じレベルで入って来れる。いま田んぼですと下がっていますけど、ここを盛土してですね、高くして盛土経費を実はふるさと納税企業版で調達したいと考えてるのですけども、ここが拠点になると自転車これ金ヶ瀬の下、アンダーパスくぐれるように県が整備終わらせてくれています、これで柴田から白石方面に繋がっていく。マップやなんかも実は仙南サイクルツーリズムに大河原町が事務局になっていまして、それで一応計画だてられたものはあるのですけれども、残念ながら様々な要因で利用される方は決して多くない。ただ時々仙台から来ている人とかですね、会ってお話聞くと結構みんな来ていますよ、ここいいですよ、蔵王の景色も見れてという話は聞くので、何とかこういった整備を進めながら拠点化、大河原町がという語弊ありますけども、拠点としての役割をここで担っていければいいのかなと思っています。蔵王町にも繋がるしなんか色々ヒルクライムやったりですね、自転車で繋がる、これまだまだやれると思っていますところ。</p>
晋山孝善委員	<p>ちょっと自分で言っていて思い出したのですけど、さっき言ったみたいにその車道に子ども達が危ないと思うんですよね。ある町に行ったときに外側にサイクル用専用のカラーリングがしてあって、そこは自転車通ってもいいですよ。これ、大河原警察署との話し合いが必要だと思うのですけど、安全に子ども達が自転車で移動ができるようなことで、ここまで全町から来れるようにっていうので外側になんか作る</p>

	とか歩道の拡幅とかできれば、違法駐車とかの問題とかも関係なくなると思うので、それが取り組めれば。
企画財政課長	ありがとうございました。イメージ図だけ一言事務局からですが、実は先程申しました建物に関しまして、地方創生拠点整備交付金という国のお金をいただきながら、将来町の活気に繋げていきたいということで、国の交付金を頂く際に実はこの創生会議が評価とかこのような中身にしたい方がいともんでいただく事項が入っていましたので、ちょっとその辺もお願いしたいなと思っておりましたので、注目だけよろしくお願いたします。先ほど盛土の方を企業版ふるさと納税を設けて当たっていききたいというのは、実は宮城県企画部の方から助言をいただきまして、3月に助言いただいたのですが4月に作って出したという部分がありまして、こちらの上は地方創生交付金、盛土は企業版ふるさと納税、そのような形で拠点作りをやっていきたいというのを町の方が進める形ということになっておりますので、その辺も一言だけ申し上げました。
晋山孝善委員	あの、今建物ですけど、確かしまなみ海道の途中とか拠点の所は、宿泊施設を併設している。休憩できてサイクルする人が泊まってまた行けるような。宿泊施設にもシャワールームとか休憩できるような形をとると、多分長距離で走ってくる人がここを中継拠点にしようというふうにする可能性が高いと考えるので。
司会者	はい。他に。せっかくです。
押野知子委員	サイクリングの話なので、自転車のことについて、高校生のことですけども駅まで自転車で通学をしていて、北白川駅とか大河原駅に二つ分かれて子ども達が登校する際に北白川駅の、非常に暗くて狭い道を通って行く…。
町長	そうですね。
押野知子委員	親としては非常に心配な点がありまして。もちろん大河原駅を利用している子ども達も、このコロナ禍ということもあってなんですが、不登校が目立っている。私は16年金ヶ瀬にいるんですけども、以前このことは無かったように思います。それがコロナの原因なのかいじめが原因なのかちょっと定かではないですけど、学校にいけない子ども達、遅れていく子ども達が非常に増えていまして。成績の悪い子がはじき出されてしまうという事だけではなく、非常に優秀な子ども達が学校に行けなくなってきていて、え、まさかっていうような事がちらほら、私の耳にも届いてくるなど。この事に関してなかなか対策が取れていないですよ。やはりお母さん、お父さんにいただいておりますので、非常

	に難しかったりですとか、子どもたちの心に傷があるというんでしょうか。どうしても家に引きこもってしまうということがありまして、学びたくても学べない。ネット環境は整っているけどもオンライン授業があるわけでもなく、なかなか難しい子ども達に丸投げという状況であってですね、何とかできないものだろうかというのが考えていただけたらいいなど。この中になかったものですから、資料の中に。学校に行けない。じゃ別の場所に…。
竹川貴子委員	・・・(聞き取れず) しないですし、大河原もしないと思います。
押野知子委員	カウンセリングが必要だと思いますし、各学校の近くに・・・(聞き取れず)があれば・・・(聞き取れず)。
竹川貴子委員	学校にも別室登校を設けていますので、今オーガのケアハウスに定期的に来ている子がそこまで多いわけではない、数名ですね、今。
町長	小学生2人。中学生5人。令和3年度ですね。
竹川貴子委員	でも今もそこまで変わっていないですね。平均数多少減少している。または全くもう本当に不登校で家に籠りっきりっていう人も居ますけども、ケアハウスの方でもそこは連携は取っているというか、連絡は取れていると聞いております。
町長	確かに、30日以上の不登校の出現率っていうのは中学校の場合、令和元年度3.94%、違う4.1%、令和2年4.23%、令和3年度6.18%に増えている。ケアハウスの利用だけでははかれない。
竹川貴子委員	私1週間に1回ケアハウスに行くんですけど、ケアハウスに来れる子っていうのは、まだいいんですよ。まず、最初の段階としては学校行けなくなった。それでも学校に行こう、学校にあのケアハウス、別室登校という所がありますので、そこで教室には入れなくてもある程度の勉強やったりレベルを落としたりっていう形で。それでもやっぱり学校に行けないってなると、毎日とか1週間に何回かとかケアハウスの方に通所っていう形で1時間とか2時間来て1対1で先生と勉強したり、あとは起立性障害とかで午前中ちょっと厳しいっていう事だと、少し朝ゆっくり10時と11時半頃からケアハウスに来て、午前中そこで勉強して一旦家に帰ってご飯食べてから午後からだったら中学校に行って授業をちゃんと教室入って授業受けて、あとは部活にも出てっていう方もいます。送迎については保護者の方が送ってくる場合もありますし、後はケアハウスの先生が車で送迎しているパターンもありますので、そこはご家庭の事情に応じて相談次第で多分やってくさると思うんですが、ただ、彼らを見ているとケアハウスの方で最初勉強始められるようになりました。頑張っって自分の中でも頑張っってみようとい

	<p>う気があって出ては来るんですけど、やっぱり何日かすると疲れてしまっていて出てくるとも体調不良ですと。なので、お家から出れるか出れないかということが、気持ちを持っていけるかどうか、見ていて大きいところだなと感じている。それぞれ個別のパターンがあるのでなんともいえないが、私が学校でも小学校でも行っていますし、ケアハウスにも行っていますが、先生方一所懸命やって関わろうとしているのは事実。実際に関わっていい方向に動いてケアハウスに通所できるような子もいるし、学校に行けるようになった子もいるので、あれなんですけど、実際本当に全然学校にも来ない子もいるので、各学校でスクールカウンセラーが配置されていますので、先生方が授業を見て回ったりとか学校との話し合いで発掘しているところもあると思うので、全く手を付けてないところはないと思います。ただ、多いことは多いと思います。</p>
町長	<p>認知されたいじめの件数は令和元年2年3年で決して増えていない。</p>
竹川貴子委員	<p>(増えて) ないです。</p>
町長	<p>減ったり増えたり。しかし基本的には令和元年に比べると令和3年はいじめは下がっている数字です。なにか要因があって出現率が6.1%に跳ね上がっているというのがあると思います。(ここには) 教育長がいないので話し合いをします。</p>
晋山孝善委員	<p>ギガスクールで他の自治体さんでギガスクールがきっかけで不登校の子が勉強するきっかけを作るといのが増え始めています。学習ができない。不登校なので。それを一人1台端末で持って帰ってリモート授業をしましょうという動きがあります。繋がるのが少しゲーム感覚で触れるというのがあるって、不登校の子に対するアプローチとして有効ではないかと話があります。ただ、自治体によって取組みがものすごくバラつきがあって、全国的にバラつきがあって、いまだに先行後行、先生方の取組みとか、頭から「苦手なの。」という方はいくら言っても触れない。簡単でも。そこはできる人はどんどん進んでしまうから開くからよけいに触れない人が出てきているのが実態です。そこをなんとか埋めていかなければならなくて、国策として動いているのでギガスクールは。そういう意味ではギガスクールの取組は、不登校問題は、いじめの問題は、逆にギガスクール端末でいじめが起こっているという話もある。そこは過渡期で動いている最中なので、でも一つ大きなきっかけなのはギガスクールで不登校の子の学習能力を上げることで自信ができれば登校する可能性は高い。</p>
竹川貴子委員	<p>結局家にもゲームしているので。</p>

晋山孝善委員	そうですね。
押野知子委員	そこで勉強ができれば登校のきっかけになったら高校、大学の道標になると思う。
晋山孝善委員	そうですね。ギガスクールは結構大きいと思う。通信系の大学まで行く子もいるので。学習機会を作るのでギガスクールはヒント。ただなかなか難しいです。現場サイドは。
竹川貴子委員	学校の規模にもよります。私は南小で働いていますが、南小の週末の宿題は紙媒体ではなくタブレットを持たせてドリルをやる形ですが、金曜日に配布して土日の決められた時間内にドリルをやって、月曜日に学校に持って行って自分でケースに入れて充電する。あとは生活科の時間に外にタブレットを持って行って、いままでだとその場で絵をかいていたものを、写真をとって、お絵描きのあれをやってみたり低学年そのくらいのレベルです。ただそれを大河原小学校の状態は分かりませんが、それを二百何十人のレベルと八百人のレベルで同じように出来るか、やらなければならないのでしょうか、やろうとしたときになかなか一斉に進めるというのが多分大変だと思います。
晋山孝善委員	それはね、先生方の意識改革だと思います。子ども達ってそのことがメインで、生まれたときから既にデジタルの世界にいる。先生方はそうじゃない先生もいる。世代的に。そのギャップが結構あって、その意識があることが、国がDXやろうとしているので、そこは先生方も意識変えていただくことが重要だとおもいます。先生方に対するフォローができる人材を…。
竹川貴子委員	そこすごく大事だと思います。
晋山孝善委員	そうしないとギガスクールはうまく回らない。
竹川貴子委員	その先生方をフォローする方っていうのは必要だと思います。クラスで一斉に使っていると、「先生、フリーズしました。」「ナントカしました。」となるので、1時間の中それを終わらせようとすると、Wi-Fiがちよっとあれになってしまう。先生方をフォローする方っていうんですかね、もちろん各学校にギガスクール構想に関して行政が入ってフォローする体制はありますが、毎日居るわけではないので、先生方のフォローアップは大事ななど。
町長	不登校からギガスクールに話移って掘り下げていただきましたけども、ちょっと話が出た格差というのが時代の厳しいほうのキーワードになっていまして、財政基盤もそうだし、地方創生の取組みもそうだし、ギガスクールも自治体DXもそう、みんな自治体間においても格差はどんどん生まれてきているというのが現実です。子ども家庭庁とい

	<p>うのが、ぼんと投げかけられて(こども家庭センターのことかと)、努力義務になるとここでまた取組み格差を生むんです。ギガスクールも大河原町は家庭内の Wi-Fi 環境を整えてできるようにしていますが、これが出来ると出来などで全然違ってくるとい現実がいっぱいあって、今日お越しいただいたお話はそのとおりだと思います。教育委員会に持ち帰ってといいますか、直接話をしますので、それでここでこれ以上掘り下げようがないと思いますので、一旦この話を終わらせていただきたい。押野さんすみません、最初不登校の話から、よろしいですか？</p>
押野知子委員	<p>ありがとうございます。</p>
永沢恵美子委員	<p>ちょっといいですか。せっかく町長が話を縮めていただいたのですが、また掘り下げていうようなのですが、今の話を聞いていると、いろんな部門というか不登校にしてもいろんな教育現場のほうからギガとか、いろんな、よくわかっていないのですが、スクールサポーターの仕事で学校の様子は見ていて、前の創生会議の時に不登校の資料を頂いてまして、その不登校の様子を見て、大河原町でこんなに不登校とかそういう何日学校に来てないとかそういう人がいたんだということで、自分が勤務していたところはそんなにいないと思っていたら、結構いたんだと。個人情報と言っているようであれなんです、擁護の先生がそういうのを見たことがなかったらしいんです。見てないということで、今の話を聞いていると、多分ここだけのその部門で不登校とか、縦でいっているけど、縦ってというか、繋がり、最後に町長が教育委員会に言うとのことでしたが、いろんなところでサポートしているところとか民生委員児童委員がやっていらっしゃることとか、そういうものが横の繋がりや情報を共有、把握がないと不登校の数字が出ましたと言っても、それがどこに行き、相談して、どんなふうに行くかというのをいろんな部門で詰めていかないと、今の状況を分からないと思うので、ちょっとすみません。言い方がよく分からないんですけど、その部門部門じゃなくて大きくまとめてそこに行かないと、根底には…。</p>
町長	<p>教育委員会は学校で教師に関わる調査と併せて、子ども達に関わる調査、家庭の中の調査、全部やりながらなにが原因になっているかということを若干コメントとしています。調査方法によりまとめられています。コピーしてお渡ししたいと思いますけど。ご指摘のとおり、教育長と言いましたが、それは掘り下げて現場を含めて状況確認をしながら、どんな対策がたつのか現状踏まえて検討したいと思います。いかがでしょうか。</p>

永沢恵美子委員	はい…っっていうか…なんていうんでしょうか。
町長	現状を把握するのにいろんな視点で見なければだめだとおっしゃっているわけですね。
竹川貴子委員	横のつながりを持って欲しいということですよ？課で終わらせるのではなく、いろんな課で横の連携をとってということですよ？
町長	わかりました。
司会	町長は話が分かったと思いますので。連携をとるということで。戻しまして、(1)に対してのご意見はありませんか。
竹川貴子委員	マイナンバーカードのデジタル化事業というのは今年度中にいけそうなんですか。やっぱりね、魅力って前の会議でも言ったんですけど、なにが出来るかってあれでやっぱりコンビニで証明が取れたりとかそういうところが、保険証のかわりに登録するとか、いろいろありますけど、あれってたしか病院側でそのシステムを使えないと意味がないという話をきいたことがあります。それは病院側の問題なのでしょうけど、せめて証明書を取れるようになったりとか利便性は高めてほしいなど。
佐藤企画財政課 参事	マイナンバーカードの普及の実態から申し上げますと、先月末現在で大河原町は確か42%少し超えるくらいです。
町長	46%じゃなくて42%か。
佐藤企画財政課 参事	46%は全国平均です。ということで全国平均よりは進んでいないという大河原町の現状です。竹川委員のお話のとおり、公金受取りの口座とか、保険証連携でマイナポイント第2弾で、それがポイントで…。
竹川貴子委員	人を釣るような感じ…。
佐藤企画財政課 参事	利用者増やすのがいいのか悪いのかという部分ではありますが、実際まだ保険証への紐付けはできているのですが、受け皿となる病院薬局が5月の末現在の数字だったと思いますが、全国平均が23%位の医療機関でしか利用できていないということで、私の通院しているところではマイナンバーカードを読み取る機械は置いてありますが、使っている人を見たことがない、という状態でございます。しばらくは病院の、結局カードを広めるか、使い場所を広めるかという話の繰り返しだと思います。大河原町では今年度町民生活課でコンビニ交付サービスを開始できるように進めております。それが始まれば全国のコンビニで大河原町の住民票、大河原町に本籍がある方の謄抄本が取れるようになる。ただ戸籍だけは住所地と本籍とが違う方いまして、本籍が置いてある市町村がコンビニ交付を開始していないと取れません。あとは相続の関係で原戸籍とか、いまのシステムで取れるのは今生きている戸籍

	<p>で、除籍とか改正原戸籍といって改正する前の戸籍については本籍地に行かないと取れないという制度として中途半端です。今後は令和7年度を目標に国で統一した申請フォームが作られていく。マイナポータル、ぴったりサービスがありますが子育てですとか福祉を中心に電子申請できる形で国のほうが整備していきますので、そこに大河原町がどのように乗っかっていくかということが今後検討されていきます。</p>
町長	<p>ちょっといいですか。今皆さんのところに大河原小中学校の不登校の児童生徒の推移はどうかという資料をお渡ししました。これは教育委員会作成で5月27日に令和4年度版としてQ&Aで作成されたものですが、取扱注意になっておりますので、各自の責任で手元に置いてください。</p>
押野知子委員	<p>高校生以上というのは分からないのですか。</p>
町長	<p>わかりません。</p>
企画財政課長	<p>今のコンビニ交付につきましては、町民生活課は令和5年1月を目標にしております。その時になりましたらこのような手続きになりますということでマイナンバーカードの有効性を広めていくこととなります。しかし国が言うようなスピードではないということが確かです。町内の部分で率を高めていくということしかできないと思います。</p>
司会	<p>ありがとうございました。(1)についてご質問はありませんか。なければ(1)は以上です。町長に同席していただいておりますので、年に1回の懇談になるので、質問がありましたら、情報交換ということで。</p>
佐々木健委員	<p>銀行でも賑わい交流施設にいろいろ携わっております、地方創生のお手伝いをしております。宣伝になるのですが、スパークのクラウドファンディングをさせていただきまして、いろいろな面でご支援できればと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>他に何かありませんか。コロナ禍ということもあり、1時間半くらい経ちましたので、区切らせていただいておりますのでよろしいですか。</p>
一同	<p>はい。</p>
司会	<p>これで終了させていただいて、事務局にお返しします。</p>

(進行：長谷川課長)

櫻井会長議事進行ありがとうございました。今回いただいた施策への意見、要望に関しましては、簡略的にはなりますが、意見、回答という形で町HPに掲載、町管理職で構成される庁議に報告させていただきながら事業評価の一環として受け止めさせていただきます。先程申しました、国の交付金とか地方創生に係る部分でご意見を頂きたいという部

分については、年に1回ですが、計画また国への交付金の申請がある場合は随時お声掛けさせていただいて会議を開催しますのでよろしく願いいたします。佐藤副会長から閉会の挨拶をいただきます。

5. 閉会あいさつ（佐藤克美副会長）

本日はお忙しい中ご出席をいただきありがとうございました。また、スピーディーな会議にご協力いただきありがとうございました。冒頭、町長からもお話がありましたとおり、大河原町は恵まれた地域ではあるとおもいますが、特徴を生かしながら今後も、私達が住むこの大河原町をより良く、そして魅力あって活力ある地域にしていけるように、またみなさんのご意見をもとにですね、進めていければと思います。本日は大変ありがとうございました。